



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二十四号〜

大雪たいせつ

十二月七日



観音さんの飛竜頭

倉田山にある松尾観音寺では、毎月十八日に観音祭が開かれています。十八日は観音さまと最も縁がある日とされ、この日に参拝し、ひと月のお礼と祈願をすることによりご利益をいただけるというものです。

落ち葉を踏みしめながら観音寺へ向かうと、ふだんは静かな境内に参拝の人々が訪れ、本堂からは読経を唱和する声が高らかに響きます。厄除けの線香をたむけ、手を合わせる時、すつきりとしました。

その後は、門前に立つ観音市へ。季節の花木、志摩の海産物：なかでも目をひいたのが飛竜頭ひりょうずです。松尾観音を盛り上げようと結成された十八会じゅうはちかいのメンバーである伊勢の老舗の蒲鉾店、若松屋さんが、「飛竜頭という漢字を知り、竜の伝説のある松尾寺らしい」と市に出すために作ったもので、もう七年になるとか。蒲鉾屋さんの飛竜頭は、木綿豆腐を練りこんだ魚のすり身にシイタケや銀杏など九種類の食材と、中央にウズラの卵が入っているのが特徴です。松尾観音寺には昔、二つ池の竜が寺の火災からご本尊を守ったという伝説がありますが、この話にちなんでウズラのゆで卵を竜の目玉に見立てたそうです。以前は観音市の十八日にだけ作っていましたが、今では評判となり、ほかの店でも売られるようになりました。観音市から生まれた名産です。

観音さんにお参りし、観音市で買った飛竜頭と干物をいただく夕べの膳。なるほど黄色の黄身は竜の目玉のようです。『龍の子太郎』（松谷みよ子著）では、竜の目玉をしゃぶって主人公の太郎は育ちました。竜の力を授けてくれるような飛竜頭です。

文 千種清美

